



たくさんの人々との出会いを生んだ英語版「琵琶湖周航の歌」。この歌を通して、豊かな自然や歴史文化に恵まれた滋賀の魅力の世界に伝えたい。

プロフィール

ハワイ生まれの日系アメリカ人。
両親は滋賀県出身。ハワイ大学マノア校卒業後、日本へ移住。
写真家と翻訳家。東京在住。
英文ホームページで滋賀県と「琵琶湖周航の歌」英語版を紹介中 (shiga-ken.com)。
Email: philbert@photojpn.org

ハワイのご出身とのことですが、来日のきっかけについて教えてください。

両親は滋賀県出身で父の仕事の関係でハワイに滞在していました。そこで私が生まれて大学卒業までいました。学生のとき家族がハワイから滋賀へ戻ったことで私も日本には非常に興味を持つようになり専攻も機会工学から東洋学に変えました。日本語や日本の歴史と文化を熱心に勉強しました。卒業して夏休みを滋賀で過ごしてから憧れの東京に住むことになりました。それ以来ずっと東京ですが、家族と親戚がいる滋賀へしょっちゅう帰っておりまして。日本に暮らし始めて最初の1~2年間で一番面白かったのです。なにもかもが新しい経験だったからね。長年日本に住んで全都道府県を回ってもう日本には面白くないところがないだろうと思ったことがありました。しかしそれは大間違いでした。ガイドブックに載っていない面白いくところがまだまだあることに数年前に気づきました。第二故郷である滋賀県でもそういったところを再発見しようと3年前から各市町を訪れて写真を撮るようになりました。滋賀県の興味深いところ、例えば琵琶湖疎水とその歴史、彦根の多景島、沖島、大雪の余呉湖などあちこちへ行きました。そして「琵琶湖周航の歌」との出会いがありまして一つの転機となりました。

写真家として活躍されていますが、写真を志された理由はなんですか？

高校時代から写真が趣味で、授業で現像などについても学んだし、その頃からコンテストにも応募していました。はじめは思い出のために旅の記録などを撮っていたのですが、日本に来てからは、祭りなど日本の伝統的なものを撮り始めました。そしてインターネット時代になるとそれらの写真を通じて外国人にもっと日本のことを知ってもらうために私の英文ホームページに掲載しています。

琵琶湖周航の歌との出会いについて教えてください。

2年前、諏訪大社の御柱祭りを見に行った時に、岡谷市の湖畔公園で琵琶湖周航の歌を作詞した小口太郎の銅像を見つけて興味を持ちました。なによりも歌詞の中知っている地名がたくさん出てくるのに興味を引かれたんです。

滋賀県でもっと調べてみると、この歌の資

料館や5つの歌碑があるということがわかり、「これはすごい歌だ」と思ったんです。英語版がないか探してみたのですが、歌詞の内容を英語で説明したものしかなくて、歌えるものではありませんでした。

そこで、曲に合わせた本当の英語版を自分で作ろうと決意しました。元の意味を理解したうえで英語版を作るためにいろいろ調べていたのですが、歌の歴史や歌詞の内容を深く知るほど、ますます魅力的な歌だと思うようになりました。例えば、作詞家の小口太郎の素晴らしい才能と短い生涯、歌詞の間違っているところ(長命寺は西国10番ではなく、31番)、意味が不明なところ(珊瑚の宮など)。そして色とりどりの美しい風景が歌詞に折り込まれています。

音楽と歌詞がぴったり合っていて驚いたのですが、音楽についての知識はお持ちでしたか。

音楽についてはまったくの素人です。楽譜も読めません! でも歌を聞きながら楽譜を見ると声の上げ下げと延ばすところが大体分かります。メロディも簡単で覚えやすい。誰でも歌えます。日本語の歌を英語にしたのは初めてです。初めは、7、5、7、5のリズムで英語に翻訳していけば自動的に歌になると思っていたのですが、できあがった英語版を歌ってみると大変だったんです、すごく違和感がありました。

よく考えてみると、その理由はアクセントが合っていなかったからなんです。日本語は第2音節にアクセントがあって、下げ、上げ、下げなので、それに英語のアクセントを合わせないと、うまく歌えないということがわかりました。

意味と音節の数とアクセントの3つの要素をクリアした訳詞にするために、ほとんどやり直しました。アクセントを合わせるためには、使うことのできる単語が限られてしまうので、やはりこれはネイティブにしかならないと思います。

また、日本語の固有名詞はそのまま使うことにしました。それで、より自然な感じで歌えるようになりました。

この歌を作るという活動に、いろいろな人が引き付けられたと思います。どのような方が集まって来られましたか。

昨年、滋賀会館で開いた写真展が朝日新聞に取り上げられると、さまざまな方から連絡を

いただき、この歌の英語版を希望されている方が私以外にもいることを知りました。

たとえば、京大のOB、県庁の国際課、高島市の英会話サークルの方、今津の琵琶湖周航の歌資料館、そしてもちろん滋賀県国際協会の方も新聞記事を見てこのインタビューを申し入れられました。

さらに、6月3日に今津港で行った英語版発表イベントで歌ってくれたジェイミー&メグン トンプソン姉妹との出会いもありました。歌ってくれる人を探していた時に、湖南市に住んでいるお姉さんのジェイミーからホームページを見たコンタクトがあったんです。英語版が完成したら歌ってもらえないかと頼むと、快く引き受けてくれました。

この歌の今後について、どうなっていくと思われますか。

訳詞が完成したからすべて終わったとは思いません。これから大切に育てていきたいと思っています。

この英語版の存在をより多くの人に知ってもらうためにいろいろなPR活動をするつもりです。まず、写真展を県内の各地で開催して歌のゆかりの地の写真と英語版歌詞を紹介します。そして各市町の教育委員会、国際交流協会、観光協会、観光ボランティアガイドの団体、琵琶湖の遊覧船の会社を訪れて英語版の歌を紹介する予定です。県内のALT(英語補助教員)、外国人の学生、ミシガンの姉妹都市の関係者、作詞家小口太郎の出身地の長野県岡谷市の方々も知ってもらうためにいろいろなコネを通じて紹介したいと思います。県内の各市町の図書館に英語版のCD(DVDビデオ)を寄付します。そして私のホームページにも歌を日本語と英語で紹介し続けます。英語版の存在が知ったうえでなにかの機会があれば使っていたら嬉しいです(または歌ってもらえば大変嬉しいと思います。英語版の発表会のDVDビデオも販売していますし(琵琶湖周航の歌資料館にて)、近日にCDも販売する予定です。

最後に滋賀県のみなさんへのメッセージをお聞かせください。

滋賀県はどこへ行ってもそれぞれ特徴があって、魅力のあるところがたくさんあると思います。お寺やお城など歴史的なものや、琵琶湖をはじめとする自然もたくさんあって、写真の被写体になるところもたくさんあります。

それなのに京都の陰に隠れて、残念ながら外国人にはあまり知られていません。日本にいる外国人も滋賀県のことを知らない人が多いんです。滋賀県の人のもっと自信を持って、自分のふるさとかがすばらしいところだということをPRしてほしいですね。

そしてこの英語版の琵琶湖周航の歌がきっかけとなって、世界に滋賀をもっとアピールできればいいと思っています。